

平成27年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション
**農薬の安全使用及び農作物の安全性
を考えるシンポジウム**

開催結果概要



平成27年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション

農薬の安全使用及び農作物の
安全性を考えるシンポジウム

主催 岩手県
後援 全国農業協同組合連合会岩手県本部



H28.1.19 県民くらしの安全課

1 開催概要

目的	農薬の適正使用や農作物の安全性について、生産者が学ぶ機会を確保するとともに消費者の理解を深めるため、シンポジウムを開催したものです。
日時・会場	平成28年1月19日(火) 13:30～16:00 いわて県民情報交流センター「アイーナ」
参加者	約50名
内容	<p>◆基調講演「農薬は、なぜ使われるのか？」～リスクを知り、総合的に判断しよう～ 科学ジャーナリスト 松永 和紀 氏</p> <p>◆パネルディスカッション「農薬の安全使用及び農作物の安全性について意見交換」</p> <p>☆コーディネーター 岩手県環境生活部技術参事兼県民くらしの安全課総括課長 白岩 利恵子 ☆パネリスト 消費者代表 岩手県生活協同組合連合会専務理事 吉田 敏恵 氏 生産者代表 全国農業協同組合連合会岩手県本部営農対策部長 千葉 文 氏 行政代表 岩手県農林水産部農業普及技術課主任 岩館 康哉 ☆アドバイザー 科学ジャーナリスト 松永 和紀 氏</p> <p>◆意見交換・質疑</p>

2 基調講演

「農薬は、なぜ使われるのか？」～リスクを知り、総合的に判断しよう～

講師 科学ジャーナリスト 松永 和紀 氏

内容 「自然、天然は安全、人工、合成は危険」と単純論法からの脱却、農薬をなぜ使うのか、農家による厳しい使用管理、最近の事例など、わかりやすく解説していただき、情報を集めて総合的に判断する必要性について講演していただきました。



3 パネルディスカッション

「農薬の安全使用及び農作物の安全性についての意見交換」

消費者の立場から農薬について疑問に思うこと、生産者の立場から農薬の適正使用の考え方、行政の立場から農薬の適正使用の取組などについて発表いただき、意見交換を行いました。

- | | | |
|-----------|------------------------------|---------|
| ☆コーディネーター | 岩手県環境生活部技術参事兼県民くらしの安全課総括課長 | 白岩 利恵子 |
| ☆パネリスト | 消費者代表 岩手県生活協同組合連合会専務理事 | 吉田 敏恵 氏 |
| | 生産者代表 全国農業協同組合連合会岩手県本部営農対策部長 | 千葉 丈 氏 |
| | 行政代表 岩手県農林水産部農業普及技術課主任 | 岩館 康哉 |
| ☆アドバイザー | 科学ジャーナリスト | 松永 和紀 氏 |



◆質疑・意見交換①

参加者から事前に寄せられた質問に対し、パネリスト等に解説していただきました。

○1 野菜などに残留した農薬を調理の段階で落とすことができますか。

⇒ 程度の差はあるので、一概にどれだけ落ちるかは、はっきりと言えないが、基本的には調理の課程で、ある程度落とすことができる。ただし、例えば水溶性の農薬であれば、水洗いで落ちるし、皮をむく作物であれば、皮をむくことで、表面にあるものはほとんどなくなる。いずれにしても、野菜や果物に農薬が残っていたとしても、農薬を適切に使用していれば、健康に影響を及ぼす量ではないので、普通に調理して食べることで問題ない。

⇒ 残留農薬を県や生協など色々なところで分析しているが、残留農薬を分析する際は、洗わないで皮ごと分析します。これは全ての作物で同じで、バナナも皮ごと残留農薬を測っている。県や生協の検査で残留農薬が検出されたとしても、特に野菜を食べる場合は洗って皮をむいていると思うので、皆さんが食べる際には、基準値を超える量が残ることはないと考えられる。

◆質疑・意見交換②

2 現在、少しずつ食の安全が危ぶまれています、安全な食材を選ぶにはどうしたら良いですか。

⇒ 県や全農は、生産者に適切な農薬使用の指導を行っており、今後も指導していく。店頭にあるものは、どれを選ぶと言うことではなく、普通に買って食べることで問題ない。

⇒ 生鮮物に関しては、国産も輸入食品も安全である。加工食品に関しては、気をつけていただきたいと思う。生鮮食品は必ず原産地表示があるので、岩手県産や中国産のどちらを選ぶか消費者の判断であるが、加工食品は、加工地は記載されているが、原料の表示はないので、極端に安いものは、それなりのものが使われていると思っていただいた方が良いのではないかと。一概に危険か安全かは何とも言えないが、安いということは、安いなりの理由があるということを考えながら、購入していただきたいと思う。

⇒ 「少しずつ食の安全が危ぶまれている」、このイメージは、危険なものが増えている、リスクが上がっているというイメージと思う。私は逆に昔より良くなっていると思っている。農薬を適切に使用されるようになっており、監視の目も強まっている。発がん物質など色々なことも分かっている、対策が取れるという状況にある。昔に比べて、リスクは下がり、安全性は向上しているが、メディアなどが発がん性物質を話題にすると、その発がん性物質は昔から食べているにもかかわらず、新しいリスクとして消費者の印象に残る。そういう構造があるので、少し意識していただいた方が良く思う。身に覚えがあると思うが昔はもっと酷かった。そういう経験を思い出して、バイアスをかけないような整理をしていただいても良いと思う。

◆質疑・意見交換③

そして、安いのが要注意というのは、そのとおり。安いから一概にダメとも言えないのが難しいところである。日本の企業が指導している台湾や中国の農場、冷凍加工工場などは、日本よりレベルが上のものがたくさんある。しかし、価格は日本の価格より安い。それは、土地代、人件費が安いということがあってトータルで安い。その現実を踏まえつつ、中国産、台湾産ではなく、やはり国産が良いという魅力を国内の生産者が付けていくか、農業生産をしながら環境を守り、田んぼの景観など違う価値を与えてくれている。その価値も含めて食品の価格ということを意識した上で食品の価格を見ていただきたい。安いからダメと言うことでもなく、高くて良いと言うことでもない。何処でどういう情報を得て決めるかというところを、皆さんに考えていただけたらいいと思う。

◆質疑・意見交換④

○ 農薬を使わず、病害虫の駆除や雑草の防除を行う方法はありますか。

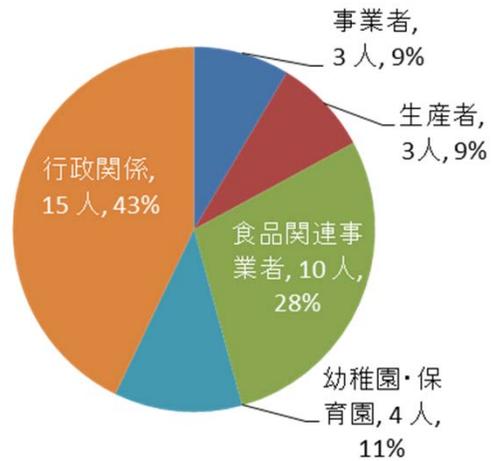
⇒ 栽培方法では、病気や虫に強い品種を植える方法や作物を毎年同じところに植えるのではなく他の作物に替える輪作。有用な微生物や天敵の力を借りて、病気や害のある虫を一定程度増えないようにする方法。光、熱など物理的な方法で虫や病気を抑える方法がある。しかし、どれか一つの方法で、農家が経済的に販売していける水準に抑えるというのは難しい。いろいろな方法を組み合わせて防除していかなければならない。

○ 散布された農薬は土壤にたまっていくものでしょうか。

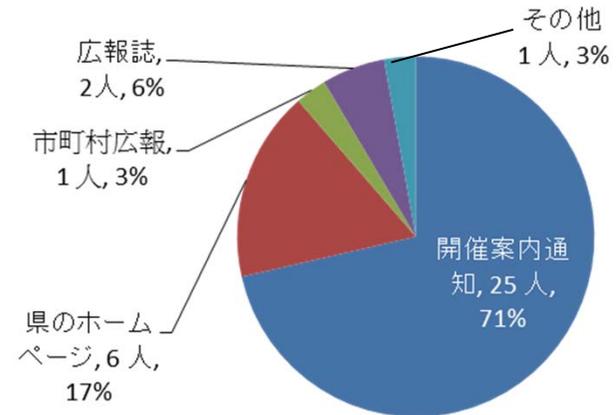
⇒ 昔はそういうこともあったが、今はそのようなことはない。半減期、例えば50ppmだった農薬が25ppmになるまでに10日や5日かかるというのがあるが、昭和40年から50年の農薬の中では、半減期はとても長いものもあった。それが、土壤に溜まっていくということがあったと思うが、今はそのような農薬は登録できないので、半減期は短くなっている。半減期が100日を超えると登録自体が厳しくなっている制度のため、それほど心配はいらないと考える。

アンケート結果

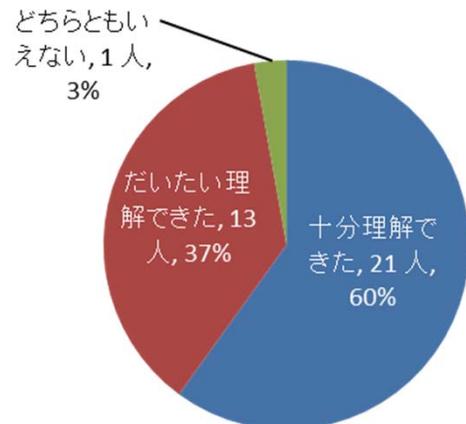
回答者の属性



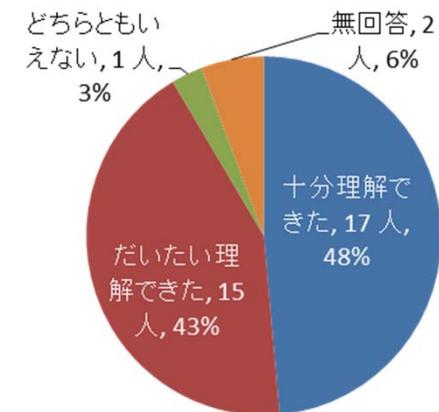
開催を知ったきっかけ



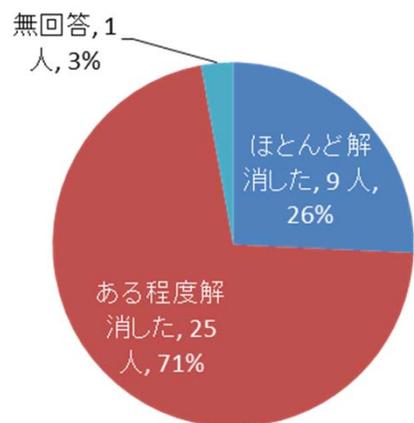
基調講演の内容



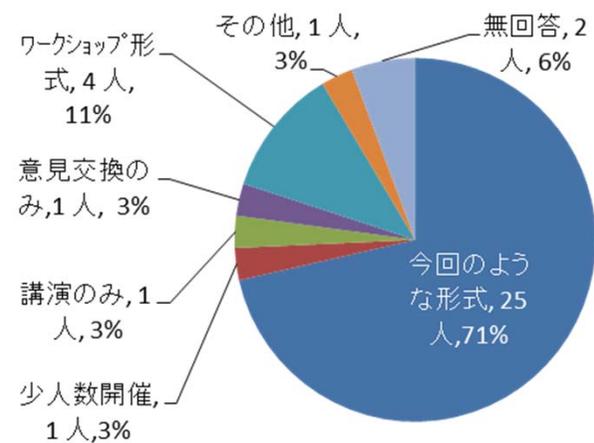
パネルディスカッションの内容



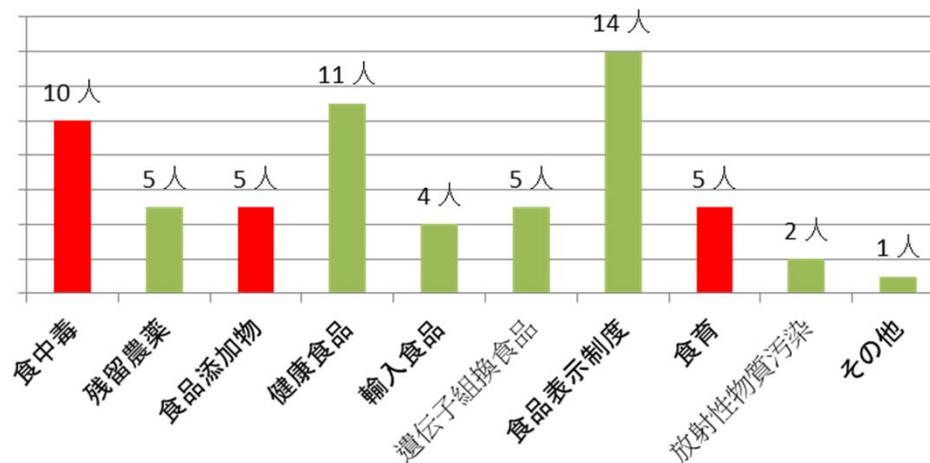
疑問の解消



今後の開催方法



今後取り上げてほしい話題



シンポジウム開催後の参加者からの主なご意見

- ◆ 大変おもしろいシンポジウムでした。一般の人にもっと聞いていただきたいので、休日にもっと大きな会場で開催をお願いします。また、このようなシンポジウムなどの告知・PRの扱いが県のホームページで小さすぎます。もっと改善を望みます。
- ◆ 農薬について自分も勉強し、情報を得たいと思った。
- ◆ 消費者目線の意見を聞くことができ、勉強になりました。
- ◆ 農薬について不安で参加しました。保育園給食を通じて今日の勉強を保護者にも伝えて行きたい。
- ◆ 行政、消費者、両面的な立場として、双方の意見がわかる・・とと思っていましたが、中々未熟なところもあり、勉強の機会はとても必要と思いました。
- ◆ リスクがあることを初めて知りました。
- ◆ 何が安全で何がダメか・・・奥が深く、今後も考えていかなければならないと感じた。食への関心は、興味がない人が多く、どう広めていったら良いのか……
- ◆ 科学的根拠でのお話しになると説得力があると思いました。たくさんの人の考え方があ
る中、私も同じ考えであるが、他にも反対意見がある方もたくさんいらっしゃるのだと思いま
した。
- ◆ 情報は立体的に捉えたいものですね。
- ◆ 様々な視点から意見が聞けて良かったです。これからもこういう場を設けて頂きたいで
す。